

サンゴ状腎結石に対する保存的治療の臨床経過と腎機能予後に

関する後ろ向き観察研究

オプトアウト用紙

研究課題名：サンゴ状腎結石に対する保存的治療の臨床経過と腎機能予後に関する後ろ向き観察研究

対象者：2014年1月から2024年12月の間に、済生会新潟病院泌尿器科でサンゴ状腎結石の診断で治療（保存治療もしくは経皮的腎結石摘出術：PCNL）を行った患者さんが対象になります。

研究責任者：済生会新潟病院泌尿器科 石川晶子

概要：サンゴ状腎結石は腎盂から腎杯に連続する腎結石と定義されます。腎機能の低下や尿路感染症の原因となることから、症状が無くても積極的治療（手術）が推奨されています。積極的治療としては、ほとんどの患者さんで経皮的腎結石摘出術（percutaneous nephrolithotripsy; PCNL）が必要となりますが、患者さんの状態によっては手術を行わず保存治療を選択せざるを得ない場合があります。しかしながら、保存治療を行った患者さんの経過やその後の腎機能に関する報告は少なく、特に日本の患者さんではよくわかっていません。そこで、当院でサンゴ状腎結石に対する保存治療を行った患者さんと、治療としてPCNLを行った患者さんのデータを比較し、経過や腎機能低下の有無、合併症の発生率について調べるため、本研究を計画しました。

研究の目的・意義：サンゴ状腎結石の患者さんの治療経過や腎機能について調べることにより、サンゴ状腎結石の患者さんに対する最適な治療方法が明らかになる可能性があります。

研究期間：倫理委員会承認日から2026年3月31日まで

情報の利用目的及び利用方法：電子カルテに保存されている患者さんの病歴、血液・尿検査結果、画像検査結果を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。

利用または提供する情報の項目：病歴（年齢、性別、併存疾患及び処方薬、尿路結石に対する治療内容、死亡情報）、血液・尿検査結果、画像検査結果

利用する者の範囲：済生会新潟病院泌尿器科

試料・情報の管理について責任を有する者：済生会新潟病院泌尿器科 医長 石川晶子

お問い合わせ先：泌尿器科 石川晶子

Tel：025-233-6161、FAX：025-233-8880